

丹羽氏が活躍した頃の城址

信長・秀吉・家康といえば、戦乱の世に幕を閉じた愛知県が誇る三英傑です。彼らの活躍した戦国時代には、各地に小さな城がありました。

その頃の城は、石垣に囲まれた天守閣のある大きな城ではなく、山頂あるいは丘の上や平地に築かれた砦（館）

のようなものでした。東郷町内にも諸輪に4か所、傍示本に1か所が、周知の遺跡（城址）として多くの文献に記録されています。

大正10年（1921年）に作られた「東郷行進歌」の5番にも次のように町内の城址のことが歌われています。



5番 ♪ 右近太夫が抛りしてふ 城址は今も残りける

昔の様もしのばれて いよいよ我が村なつかしや

城が、いつの頃から存在していたのか詳細は不明ですが、戦国時代には丹羽氏が、岩崎城を拠点に勢力を拡大し、当時の東郷町域を治めていたようです。

岩崎城2代目城主の氏識は、諸輪にある城の城主でもあり、また3代目の氏勝は、傍示本城の城主でもありました。

そして氏勝から傍示本城主を引き継いだのが、丹羽氏重です。氏重は、小牧長久手合戦のとき、兄の氏次（岩崎城4代目城主）が、徳川方の将として出陣した際に岩崎城を守っていました。

このとき岩崎城下を密かに通過しようとしていた豊臣方の大軍に気づき、少兵力にもかかわらず、攻撃して豊臣方の極秘の岡崎侵攻を阻止することができました。

丹羽氏は徳川方に大きく貢献しましたが、傍示本城主だった

氏重は、このときに亡くなっています。

丹羽氏が、岩崎城主となって現在の日進市や東郷町地域を「氏清・氏識・氏勝・氏次」の



丹羽氏識（氏勝の父）

別称「右近太夫」

法名「道休」

岩崎城: 二代目城主

上城: 城主

中城: 城主

清安寺創建: 天文3年
(1534)

永禄8年(1565)没

丹羽氏勝（氏重の父）

大永3年(1523)生

別称「右近太夫」

岩崎城: 三代目城主

傍示本城: 城主

慶長2年(1597)没

丹羽氏重

永禄 12 年(1569) 生
別称「次郎三郎」
中城:城主
傍示本城:城主
天正 12 年(1584) 没

四代で治めていたのは、約60年間とされています。

諸輪の城の名称は、東郷町教育委員会発行の村絵図集にある3枚の絵図には、「上城・中城・下城・前城」と書かれています。第2絵図が、寛政4年(1792)と記されており、第1絵図は、明和5年(1768)から天明元年(1781)の間に描かれたものと推察されています。

ところが、江戸後期や明治期に出版された「尾張志」や「愛知郡誌」では、「北城・中城・南城」と記載され、「前城」の記載がありません。このため、以後の城名に混乱が生じています。

諸輪に所在する城址にかかる「城名の混乱」

尾張志（天保 14 年）	北城	中城	南城・下城	
愛知郡誌(明治 22 年)	北城	中城	南城	
東郷村史(S32 刊)	北城 (P282)	中城 (P282)	南城 (P283)	東城 (P285・P293) 城の腰・釜の前 (P293)
諸輪の歴史(S50)	北城 (P39)	中城 (P40)	南城 (P43) 本陣(P44)	南城・城の越 (P44)
東海古城研究会機関誌 「城 No.96」(織田氏)(S55)	北城・上城	中城		南城・下城
文化財物語(S57)	北城	中城	本陣	南城・東城
県中世城館跡調査(H3)	北城	中城	下城	
寛政4年 村絵図集1～3(H3)	上城	中城	下城	前城
諸輪の歴史散歩(H19)	上城・北城	中城	下城・南城	前城
尾張の古城(笹山氏)(H20)	北城	中城	下城 南城 (P199)	南城・東城 城の越 (P199)
東海古城研究会機関誌 「城 No.218」(高田氏)(H27)	北城	中城	南城	東城・前城

※1 城の名称は、誤解や誤記を防ぐため、上表の文献の中で一番古い「村絵図集」に倣うべきものと考えます。

※2 尾張志で「北・中・南」という方向による表現で記述された上に、「前城」の記載が漏れたことにより、以後の文献において混乱が生じてしまったと考えられます。

※3 更なる混乱防止のため、今後は上城(北城)・中城・下城(南城)・前城(東城)という表記により記述されることが望ましいと思われます。